

朱印の思い出

私に

この春、妙心寺塔頭の退蔵院様の朱印所で、

揮靚に来られた方々に、朱印の筆を揮わせたいと思

いました。世事に疎い私が、堂々と揮靚者の前で、

の筆を運ぶることの幸せは、書くことが大好きな私に

とりまゝ、何事にも替えがたい喜びです。

小学校四年生より書道と習い始めて五十一年あまり、

日夜努力を重ねてきた結果、このような機会に

恵まれること、一喜に考へて、其れ身と助けると

いふ時々の通りだと感じています。

今と溯ること四年、勤勞しつゝおりに至安神宮で

朱印を参考の方に筆を揮はりました。

最近には外国の方にも日本文化を研究されたりおられ
る様です。当時ドイツ人の青年が、自分の

空手道場に掲げたのでと言ふ色紙を

依頼された事もあり、私の字が正に外国の

道場にと、恥ずかしいやう嬉しいやうな複雑な

気持ちになりました。私の懐かしい思いの

一ページとなりました。

これからは、書くという機会をようと

頂ければ、健康の許す限り 自信を持つ

満足し喜んで頂きます様。益々精進を

重なりまいるたいと心に誓うといふ昨今で
こいいます。

山本達子